

## JASIS2014 見聞録

千葉県の幕張メッセにてJASIS2014が9月3日(水)から9月5日(金)にかけて行われました。入場者数は初日から7,812人を記録し、期間を通じた入場者数合計は22,853人と昨年同様に変化盛況だった様子がうかがえます。今回の取材を行ったのは中日の4日でしたが、まず、事務局本部でJASIS委員会委員長の野元政男氏、事務局長の濱崎勇二氏、国際委員会委員長の川本健志氏から、JASIS2014についてお話を伺いました。

JASISとなって今回で第3回目の開催になります。テーマは今年も「未来発見 (Discover the Future)」です。新しい技術との出会いを感じるJASISの定番テーマとなった感がありますが、事務局には来年のポスターもすでに貼ってあり、宇宙船地球号を思わせるイラストにやはりテーマは「未来発見」でした(写真1)。JASISおよび前進の分析展/科学機器展は、これまでで研究開発や生産技術を支援し続けてきましたが、これからはアジア最大級の総合博覧会としてイノベーションを生み出し、将来のビジネス発展につながる発見の場となることを目指し、従来までの展示会、新技術説明会、コンファレンスに加えて、新たな企画を今年も様々な立ち上げていました。

今回のJASISの開催規模は総小間数1,399小間、総出展社数466社であり、これは双方とも新記録となるそうです。また、取材日も会場は大変盛況で活気に満ちていましたが、JASISはユーザーの入場者が多いことが特徴ということでした。これは、主催者と出展者がユーザーの多様なニーズに答える努力を続けている結果だと思えます。たとえば、JAIMAセミナーでは、ハードとソフトを両輪とし問題解決のための多様な講義を用意しています。また、新技術説明会は質量ともに充実しており、新たな技術情報を取得するコンタクトの場として、今年も13,921人が聴講していました。JASISは、国内は当然としてアジア・ヨーロッパなどグローバルな視点での取り組みも活発で、例えば、会場内でのイン

ターナショナルオーガナイゼーションコーナーや国際コンファレンスなどの他に、通訳による二か国語での発表を増やしており、また、インフォメーションはすべて英語、日本語、中国語表記するなど、細やかな配慮をしているということでした。

さて、ここからは、実際の会場の様子をご紹介しますと思います。

分析、科学機器分野でアジア最大の展示会を標榜するJASISですが、来場者に効率よく情報収集してもらう工夫がいろいろとされています。

まずは、入場方法。WEBでの事前入場登録を済ませておけば、ほとんど待ち時間なく入場することが可能でした。昨年から始まった学生さん向けの「マイナビラウンジ」。JASISを業界研究の場として活用できるようにマイナビ専門スタッフがサポートしてくれる仕組みです。「意識の高い学生さんが多かった」とのことでしたが、そんなことはあまり気にせず、学生さんの特権を活かして気楽に立ち寄ってみてもいいかもしれません。

昨年からは始まったスマホアプリサービスは今年も大活躍。広い会場の案内のみならず、新技術説明会やJASISコンファレンスのプログラムの探索も可能。確かに便利な様子で、スマホ片手にブースを探す来場者の方も多く見受けられました。ちなみに、展示会場内にはインターネットコーナーや無線LANコーナーもあり、記者のようなガラケー派の方でも安心して、現地で検索がかけられるようになっていました。

実際に情報を探索し、まずは先端イノベーションから取材をスタートしました。特別企画として、分析市場から先端診断市場へのビジネス展開の加速というコンセプトの元に、「先端診断の世界動向」「クリニカル分野における各種質量分析計による先端診断」「遺伝子診断の現状と将来展望」というテーマで3日間17題の基調講演が行われました。とても「展示会併設の講演会」といった内容ではなく、JASISの主目的として来場されている方も多かったと思われます。

当日は、汎用ヒト型ロボット「まほろ」のデモンストラクションを横目で見ながら、熱気に包まれる講演会場へ向かいました(写真2,3)。写真では一部空席もあるように見えますが、実は周囲は立ち見ができるほど。先端イノベーションゾーンは展示会場内にあり、展示会場にいられている方々を盛大な拍手と熱気で引き寄せるという仕掛けになっていました。なにせ演者は産官学の著名な先生方ばかり。興味本位で様子を見に来てそのまま動けなくなる方続出、というのが「立ち見」の理由の様でした。

次に、展示会場へ移動。過去最高の展示数、1日あたり7000人を超す来場者となると、参加した経験のない方は「人ごみ」を予想されると思います。ところが、幕張メッセの展示場4ホール分を使った巨大な会場に圧倒されることはあっても、展示会場内で圧迫感を感じることはほとんどありません(写真4)。実は、この広大な展示ゾーンはいろいろな工夫がされています。圧迫感が出ないようなブースの配置、ゆとりのある通路、十分な休憩ゾーンの確保など、随所におもてなしの心を見ることが出来ます。そして、特筆すべきは足元。ライトブ

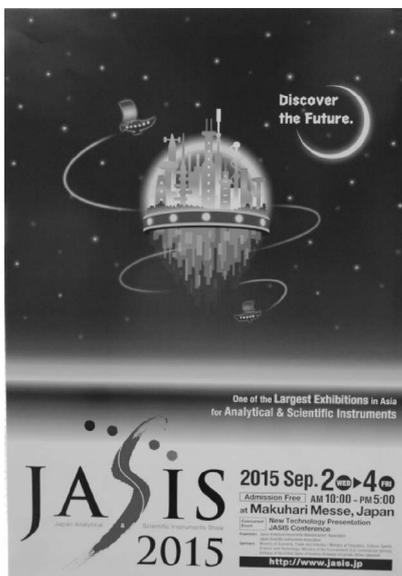


写真1 JASIS2015のポスター(ぜひ、ご予定ください)



写真2 先端診断イノベーションゾーン案内板



写真4 展示会場



写真3 先端診断イノベーション講演風景



写真5 幕張メッセ国際会議場での講演

ルーのカーペットは「来場者の方が疲れないように」という配慮から設置されているとのこと。知りませんでした。JASISさん、なかなか粋な配慮です!!

各展示ブースは、新製品の展示やデモンストレーション、ミニ説明会や抽選会など、お祭りの屋台を連想させるにぎやかさでした。毎年参加していると、顔見知りの営業さん・技術員の方も増え、さながら同窓会のような雰囲気になるのもJASISのいいところ。ただし、各展示ブースで行われているのは、ユーザーとメーカー技術者の熱い議論であるのは、「分析展」時代から変わらないJASISの伝統。ネットがどんなに発達しても、やはり、Face to Faceの議論にはかないません。ユーザーにとっては「現場の悩みやニーズをダイレクトに伝えられる場」、メーカーにとっては、「新規ユーザーへのアピール」に加え、「既存ユーザーとのつながりを深める場」。進化していくJASISにあって、ここだけは変わって欲しくない部分です。

続いて、新技術説明会の紹介に移ります。新技術説明会は、新製品や新技術情報、分析のノウハウなどの情報収集の場として人気があります。一方、メーカーにとっても、絶好のアピールの場。真剣勝負の説明会は2会場17室、3日間で約350テーマ（これも過去最高!）。会場の席には限りがあるため、人気のある説明会は開始前に列ができるほどのにぎわいでした。分析化学が関連している分野は多岐にわたりますが、これだけの演題数があれば、3日間のどこに訪れても、必ず関連分野の説明があるはず。JASISの参加の仕方は人それぞれですが、「新技術説明会で概要を把握してから、展示会

場で具体的な議論をする」というのが、新技術にチャレンジしようとしているユーザーにはお勧めです。人前で質問するのはちょっと勇気がいりますからね。

最後に、JASISコンファレンスの会場に移動しました。今年のJASISコンファレンスは、28団体、51セッションとなり、こちらも過去最大とのこと。会場は展示会場に併設されている幕張メッセ国際会議場であり、展示会場とは違って落ち着いた雰囲気（写真5）でした。バイオ、先端診断、食の安全、医薬品開発などテーマは多岐にわたり、内容的にも、最先端技術を議論する各種フォーラムから、恒例となっている入門～初・中級向けの「これであなたも専門家シリーズ」まで、いろいろな方が参加できるように工夫されていました。アジアテクニカルフォーラム、USシンポジウム、英国王立化学会東京国際コンファレンスなど国際色豊かなセミナーもすべて同時通訳（費用も準備の手間もかかりません）付き。オーガナイザーの先生方、事務局の方々は大変なお仕事だったと思いますが、参加者の皆さんはきっと満足されたと思います。

さて、駆け足で、JASIS2014の説明をしまいましたが、少しでも雰囲気をお伝えできたでしょうか？ JASIS2015は2015年9月2日（水）～4日（金）。（コンファレンスのみ、9月1日～4日）。今年と同じく、幕張メッセで開催されます。ご興味を持たれた方は、ぜひご参加いただければと思います。ちなみに記者2名は、大量の資料と抽選会で引き当てたちょっとした幸運を手土産に、大満足して帰途につきました。来年もぜひ参加したいと思っています。

最後に、取材にあたって貴重な時間を割いていただいた日本分析機器工業会の諸氏および事務局の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

〔株〕荏原製作所 高東智佳子  
味の素製薬(株) 中山 聡